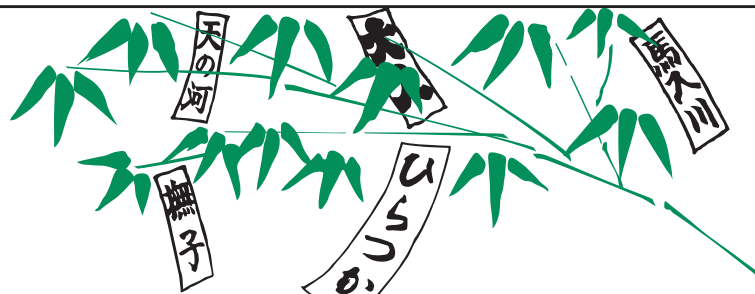




http://hiratsuka-rotary.jp



Be a gift to the world

2015～2016年度
国際ロータリーテーマ
Be a gift to the world
「世界へのプレゼントになろう」

HIRATSUKA R.C. WEEKLY

- 会長 常盤卓嗣 ●副会長 片野之万 ●幹事 高橋建二 ●会報委員長 西村裕子 (2015～2016年度) E-mail:hiraturc@ma.scn-net.ne.jp
●例会日 毎週木曜日 12:15～13:30 ●会場 グランドホテル神奈中 平塚2F ●事務局 平塚市松風町2-10 平塚商工会議所内
●四つのテスト 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

第3035回例会 2016年2月7日 ホテル・サンライフガーデン 週報第3035号

2015-16年度

国際ロータリー第2780地区 第8グループ I・M

テーマ：ロータリーデー『世界でよいことをしよう』
～認知度の向上と奉仕活動の実践～

I. M. 報告事項 期間(2015年2月7日～2016年2月7日)

◆クラブ新会員 (計7名)

藤田明嗣・嶋田政光・瀬尾光俊・菅原喜幸・元吉裕員
会員 (5名)

当日入会一今村佳広・柳川信男 会員 (2名)

◆物故会員

大塚健次会員 (2015年3月4日逝去 享年83才)

今年度はI. M. のテーマにそって、グループ内3RC
がクラブの活動を報告されました。

平塚湘南 RC の「フィリピンの水供給施設の新設」につ
いては2015年9月17日に、平塚西 RC の「タイで
の歯科検診と口腔衛生教育」については同年11月19
日にクラブ卓話で伺っておりまして、2番目にご報
告された大磯 RC の【米国インターアクターの東日本大
震災支援が生み出したもの】の資料を河本親秀パスト
・ガバナーにお借りしてご紹介致します。

I. M. パネルディスカッション

米国インターアクターの東日本大震災支援が 生み出したもの

パネリスト 河本親秀

① IM 実行委員会からこのテーマで報告するようにと
の要請がありました。

このインターアクターとは Racine St.Catherine's High
School 内で2010年に創立された IAC の15名の生徒達
です。この学校はアメリカ・ウイスコンシン州ラシン市
にあります＝ご存じのようにラシンはロータリークラブ
創始者のポール・ハリス生誕の地です＝この学校は
ローマン・カソリック系の学校で、創立は1864年、現
生徒数は約350人、高校バスケットボール界の強豪で
す。このインターアクター達が2011年3月11日の東
日本大震災の報道を見聞きして、震災復興支援義捐金

5,000ドルを集める事
を決定、この IAC のス
ポンサークラブのラシ
ンファウンダース RC
がこの義捐金を有効に
使ってくれる日本の
ロータリークラブを探
す事になり、探しあぐ
ねた末、メンバーの一
人の奥さんがラシンに
ある国際企業 S.C ジョ
ンソン本社の国際部に
勤めていた奇縁で、彼女から日本のジョンソン社に探索
依頼が舞い込んだのでした。日本ジョンソンの現広報部
長が私が大磯 RC メンバーである事を覚えていて呉れた
ので私宛に大磯 RC で引き受けられませんかとメールが
入りました。これが4月14日の事でした。たまたま私
が会長でありまして、1972年に大磯町にジョンソン
が本社工場を作った関係で、大磯町とラシン市と姉妹都
市提携をしている関係からも、またラシンファウンダ
ース RC の親クラブであった、ラシン・ダウン RC と姉妹
クラブ関係にあった事から即引き受ける事を約束したの
でした。

② IAC 達は懸命に募金活動をしました。7月まで掛かっ
て3,200ドルを集めたところで、IAC 達の熱意に動かさ
れたラシン・ファウンダース RC が後押しして5,000ド
ル募金達成が8月27日でした。

③ 大磯クラブは IAC の5000ドルと同額を拠出し、1
万ドルのプロジェクトを探す事に→プロジェクトは高校
生が集めた資金なので、R 財団事務局に依頼して学校・
教育関係プロジェクトを探索→福島県のいわき鹿島 RC
提唱の江名小学校+永崎小学校支援プロジェクトを紹介
頂きました。いわき鹿島 RC と相談の上、1万ドルで支
援出来る江名小学校分を選択し財団の認可を得たのが9
月22日。ヤレ嬉しやといわき鹿島 RC に伝えたところ、
実は江名小の校舎に永崎小が同居の状態であることが分
かり、さあどうしようか困って当時の第8G ガバナー補
佐の樋口さんに相談したところ、即座に第8G 全体 (230
人) で支援しようと決断下さり、会長幹事会に経緯と現
状を報告し支援をお願いしたところ、全会長、幹事が即
賛成、一人100ドルを拠出頂く事になり、直ちに財団
の東日本震災復興基金に永崎小分を申請、11月23日



Racine St. Catherine's High School



Racine Founders Rotary Club

<出席報告>

本日 2月7日	会員数 63名	対象者 60名	出席者 63(60)名	出席率100.00%			
前々回 1月21日	会員数 61名	対象者 58名	出席者 43(41)名	出席率 71.67%	MUP 0名	計 43名	修正率 71.67%

に永崎小学校分の認可を得る事が出来、具体的に支援品の購入をいわき鹿島 RC にお願ひしました。

④. いわき市訪問：

2012 年 1 月 10 日、打ち合わせの為に河本がいわき鹿島 RC を訪問、被災地を視察。この写真一見何もない感じですが、家の土台が海岸から 2-300 メートル内陸までまるで墓石のように並んでいました。海岸の魚市場や、魚処理場が津波で全滅、取り壊しの最中でした。

⑤. 2012 年 2 月 23 日、奇しくもロータリー創立記念日に樋口ガバナー補佐を始め、第 8G・7 クラブ代表 20 名でいわき市を訪問、永崎小学校と被災地を見学の後、江名小学校体育館での支援品贈呈式に出席。ロータリアン 30 数人、両校の 6 年生約 60 人、先生方 8 人、新聞社 3 社計約 100 人出席。会場には楽器類、体育用具、等が並べられていました。こちらからはラシン・セント・キャサリン IAC からのビデオ・メッセージを流したり、森洋ガバナーのメッセージ、ラシンファウンダース RC 会長メッセージを代読、校長に手交、そして代表団から両校 6 年生に目録を渡し、それに対する両校長の謝辞、生徒代表のお礼の言葉等があった、約 1 時間ほどで無事終了。



江名小学校に保管されている寄贈楽器

⑥. 贈呈式終了後、いわき鹿島 RC の心温まる歓迎夜間例会に出席、出席者全員一言話し、友好の絆を深め、最後は手に手つないでを合唱しました。

⑦. そして、ここに写真はありますが、その年、2012 年 8 月 12 日、大磯姉妹都市協会会長で大磯 RC 会長であった新宅氏がラシン市を表敬訪問、そこでメールのやりとりでしかコミュニケーションがなかったラシンファウンダース RC 会長と St.Catherine High School IAC 会長がラシン市の歓迎レセプションに出席、直接の顔合わせが出来ました。更に昨年 7 月にラシンから大磯町に派遣された 3 人の交換高校生の中に一人 IAC 入会予定者が含まれており、贈り物の交換をしました。今年は大磯町の高校生のラシン市派遣の計画が進んでいます。

⑧. 2013 年 4 月 13 日、支援プロジェクトが緑となり、大磯 RC-いわき鹿島 RC の姉妹クラブ締結に発展しました。この時支援活動でいわきに一緒にいた皆さんも駆けつけて下さり、嬉しい再会・交流の場となりました。

⑨. 2014 年 2 月 1 日第 8G・IM で桐本ガバナー補佐のテーマ「震災は避けられないけれど、被災は避けたい」のもと、いわき鹿島 RC から語り部鈴木利夫氏を招請、鈴木さんが海岸で経営していた 3 階建て民宿の屋上で津波が押し寄せ次々に家が流されるのを見ていた生々しい体験談・その後の活動などが会場の聴衆を感銘させ、俄作りのティッシュの募金箱を会場に回したところ何と 103,321 円も集まった。この寄付金は当時のいわき鹿島 RC 会長であった曾我泉美さん経営の NPO 法人ふくしま震災孤児・遺児をみまもる会チャイルドハウスふくまの支援に使われるという嬉しい事がありました。先日いわき鹿島 RC を訪問したとき改めて感謝の言葉を皆さんに伝えるよう言付かってきました。

⑩. この IM で、平野ガバナー補佐、小玉 IM 実行委員長から、パネルディスカッションで大磯 RC からこのプロジェクトの総集編をやれというお話しがでました。たまたま 2011 年 3 月 11 日の時私が大磯 RC の会長で、このプロジェクトの推進役でしたし、今回もまた会長と

いう不思議な縁に繋がれ、丁度 5 年の節目にも当たるので、何とかこの物語の結末を付ける義務があるかとも思い、去る 11 月 26 日いわき鹿島 RC のメンバーと共に江名、永崎小学校を訪問、校長先生・教頭先生と面談、学校の現況と我々の寄贈品が現在どう使われているのかを確かめに参りました。

⑪. 両校とも放射線量も減り、授業も建物も完全に復旧しています。しかし 2011 年には江名小 120 人居たのが 102 人に、永崎小では 130 人いた生徒が現在は 120 名前後に減り、更に減り続ける傾向にあるとの事。被災者が戻ってこないのが原因との事でした。支援物資については被災当時は色々なものが沢山来て、整理出来ないで困ったが、ロータリーから頂いたものは、学校が指定した物資ばかりで、総て現在も重宝しているとの事でした。これらの写真は支援物資の現在です。ここには江名小学校生徒が小名浜地区の音楽コンクールに出演している写真ですが、永崎小も出ているそうです。今回の訪問で、我々が選んだプロジェクトは間違っていなかった。支援品は今も生きていると感じた事でした。

⑫. 学校訪問後、海岸被災地を廻りましたが、海岸は 8 メートルの防潮堤建設の最中で、一部完成していましたが殆どは工事中、美しかった海岸線が殆ど見えなくなっており、東北の湘南と言われた海岸が見られないのは残念でした。

防潮堤内の被災地は平坦に均され、整地され、一部は高台に造成されていました。

一番印象に残ったのが被災のシンボルであった豊間中学校とその校庭にあった瓦礫の山がすっかり無くなって平地になっていた事と、永崎小学校玄関前の放射線量測定器の値が 5 年前の 0.142uSv が現在 0.088uSv (約 40% 減) になっていた事です。この測定器は気持ちの上でなかなか外せないそうです。また防潮堤工事はこの先何年かかるのでしょうか？ 東日本の復興はまだまだの感です。

アメリカインターアクターの東日本大震災支援が生み出したものは纏めるとこの通りです。大磯 RC としては、この縁を大切にいわき鹿島 RC との姉妹関係、ラシンの St.Catherine's IAC、ラシンファウンダース RC との関係を長く維持して行きたいと考えています。

以上



アトラクションは「湘琉会」による沖縄民謡の三味線と舞踏です

<メイクアップ>

0 名

<本日のスマイル>

実施せず

<卓話・行事予定>

2 月 25 日 (木) 入会記念卓話 瀬尾光俊会員

3 月 3 日 (木) 職業奉仕委員会・会員健康診断

10 日 (木) (株)研進 (障がい者就業支援団体)

代表取締役 出縄貴史様

『どんぐりブラザーズと命の森づくりプロジェクトについて』

17 日 (木) 入会記念卓話 元古裕員会員

24 日 (木) メビオール(株)

代表取締役副社長 吉岡 浩様

<市内例会変更>

現在ございません。